

羽ばたけ! TUT2020 報告書

5 系 (B) 1 年 氏名 松井 美波

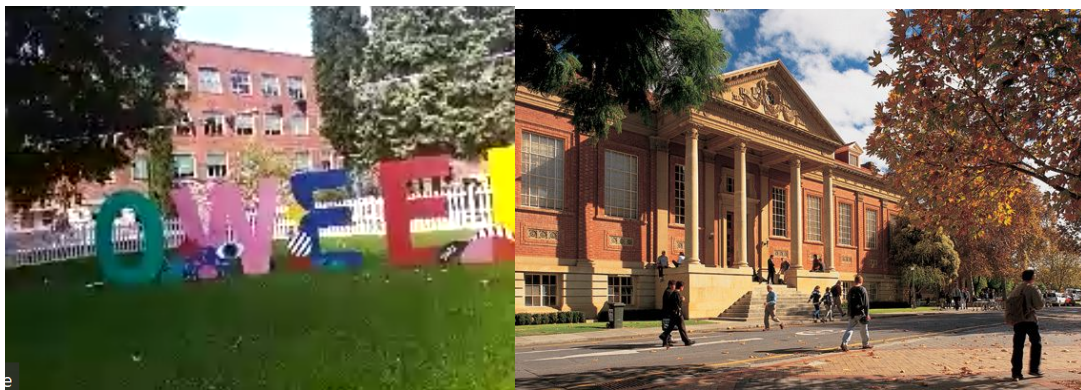
参加プログラム	オーストラリア研修
研修先機関	University of Adelaide
プログラム名	3 week global jinza program
研修内容	
① 参加の目的は、2 つの側面からあります。1 つ目は、将来のビジネスにつながる、自分の英語力を高めるだけでなく、自分の思ったことを周りに流されずに適切な表現で伝えること。2 つ目には、自分の専攻である、建築学について。多民族国家の文化の結合により生まれる芸術や都市のクリエイティビティを知り、これからの自分の設計のヒントを探すことでした。 ② プログラムの参加の動機は、この春に大きく成長したいと思ったからだ。 コロナ禍で、勉強のモチベーションを探すのに半月の長い時間途方に暮れていたが、羽ばたけの応募開始を見つけて、自分を変えるチャンスだと思った。 また、旅や留学にいけないが、オンラインのホームステイやアデレード大学の学生と話す機会がある、アデレード大学オンライン留学を通して、海外の生活や文化を知るとともに、海外でも活躍できるように、同じ大学生としてどのように勉強して、将来をどのように考えているのか知りたかったからだ。 ③ 研修では、たくさんのことを教えてもらい、自分にとって、とても影響や学びが大きいオンライン留学になった。その中で、文化的なことや英語についてと建築学の二つの側面に分けられる。 まず、文化や英語などの将来のビジネス的に必要なことについて。オーストラリアは多民族国家であり、人種や年齢、性別的なことに対して、とても繊細的に捉え、みんな違うけれど、同じだと言う共通意識があることがわかった。相手の考え方だけでなく、人の失敗も受け入れる国民性にとっても衝撃とオーストラリア人への尊敬の情が強くなった。そして、アデレード大学の学生へのインタビューで、とてもモチベーション高く学問に取り組んでいるのがとても刺激になった。 コロナ禍でモチベーションを見つけるのがとても大変だったが、学生の限られた時間は本当に貴重だと、社会に出たあとまた大学院に通い始めたアデレードの学生に言われたとき、何か行動しなければいけないと思えた。また、同年代のアデレードの学生に「留学が終わっても連絡を取り合って、一緒に情報交換していこう。」と言ってもらったとき、お互いに学問を高めあえる友人ができたことに本当に喜びを感じた。 次に、自分の専攻である、建築学について。 初めて、アデレードのまちを見てまわる、amazing tour に参加した時、アデレード市は、自然とモダン建築、伝統建築が違和感なく融合していた。公園では、横たわって本を読んでいた	

り、おしゃべりをしていたり、自然と直接触れられるアデレード市民はとても生き生きとしていた。

アデレードの街で、「自分の町で誇れることは何か」とインタビューをした時に、「自然が豊かなところ」という人が多くて、その理由がとても納得できた。

オーストラリア人の自然にとっても愛し、街を清潔に、伝統も大切にしようとする心にすごく感激させられた。

アデレードの街には、自然だけでなく、若手のアート作品が展示されていたり、若いミュージシャンがギターを弾いたり、誰でも自由に使えるピアノで誰かが演奏していたり、とても芸術的で明るいまちで、オンラインで参加していてもすごく元気をもらった。「オーストラリア人はジョークが上手で面白い」という中学の時にに行った留学での第一印象は変わらないなと思った。そんなオーストラリア人のクリエイティビティーを育てているまちの雰囲気はすばらしいなと思った。



- ④ オンライン留学に参加する前は、勉強へのモチベーションが持てなかったが、この留学からたくさんのことを学び、将来の夢に情熱を持って努力しようと決心できた。

「国境を越えて、建築家として活躍する」

そのために学部2年次には、英語やフランス語の勉強と建築のコンペティションに挑戦していきたいと思う。

- ⑤ オンライン留学でも、お互い高あえる友人を作ることができ、本当にためになるチャンスを得ることができ、本当にこの留学に関わっていただいた方々に感謝しています。

アデレードで教えてもらった、“welcome mistakes”の精神で、大学でもいろいろなことに挑戦して、大学の留学生とも、文化などを共有して、視野を広げていきたい。